

京都観世会五月例会

令和3年5月23日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



橋弁慶 〈能〉

林宗一郎

長光 〈狂言〉

小笠原由禰

杜若 〈能〉

片山伸吾

須磨源氏 〈能〉

橋本光史

主催 公益社団法人 京都観世会

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ・お申込み ☎ 075-771-6114 <http://www.kyoto-kanze.jp>

本公演は新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿った対策を講じる為、5月例会前売券は4月16日より事務所・電話・WEBにて限定数での発売と致します。なお年間普通会員・6回会員の方は、事前予約なしでご入場いただけます。

前売券 (1階・2階自由席) 6,000円
学生券 (2階自由席) 3,000円

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金です。

京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
J R京都駅から—
市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
徒歩約3分 (乗車時間約30分)
地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて東西線に乗り換え
「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
阪急京都河原町駅から—
市バス[31][46][201][203]で「東山仁王門」下車
徒歩約5分 (乗車時間約15分)
京阪三条駅から—
市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
徒歩約3分 (乗車時間約7分)
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
J R二条駅から—
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
山科・醍醐方面から
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9～17分)
地下鉄東西線「東山駅」から—
①番出口から徒歩約5分
- ◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

京都観世会五月例会

生若林 彩八子
従者 寺澤 拓海
林 宗一郎

橋弁慶

大鼓 河村裕一郎
小鼓 曾和 鼓堂
笛 左 鴻 泰 弘

長 光

田舎者 小笠原弘晃
目代 泉 慎也

(十二時半頃)

休憩二十分

杜 若

片山伸吾
旅僧 江崎欽次朗
小鼓 林 吉兵衛

大鼓 河村眞之介
太鼓 前川 光 長
小鼓 林 吉兵衛
笛 竹 市 学

休憩十五分

(仕舞)
放下僧 小歌
田茂井廣道
大江 広 祐

須磨源氏

橋本光史 従者 有松 遼一
藤原興範 岡 充
大鼓 石井保彦
太鼓 前川 光 範
小鼓 清水 皓 祐
笛 森 田 保 美

後見・地謡

(後見) 橋本光史
杉浦豊彦

谷 弘之助
大江 泰 正
松野 浩 行
橋本 忠 樹
吉浪 壽 晃

(後見) 山本 豪 一

(後見) 味方 玄
片山九郎右衛門
浦田 親 良
河村 和 晃
宮本 茂 樹
深野 貴 彦
浦田 保 親

(後見) 橋本擴三郎
大江又三郎
樹下 千 慧
河村 浩 太郎
河村 和 貴
橋本 忠 樹
吉田 篤 史
浦田 保 浩
井上 裕 久
分林 道 治

解説

橋弁慶

西塔の近くに住む弁慶は、さる願ひ事のために、五条の天神へ丑の刻詣をしよう。今夜が満願という日に従者と共に出かけようとする。従者は、昨夜五条の橋に十二、三歳程の少年が通行人を小太刀で切つて廻り、その姿はさながら蝶・鳥のようだったと言ふ。従者は弁慶に「一旦は思い止まらうとする弁慶だが、弁慶ほどのものが聞き逃がしたとあつては無念だ、その者を逆討ちとつてやろう」と五条の橋へ向かう。

(中人)

五条の橋では化生の者からやうとの思ひで逃げて来たという者が、その恐ろしかった話を顔見知りの者にする。あまりにおびえているので、顔見知りの者はおもしろ半分に「さっきの千人斬りがそなたを討ちもらしたのが残念だ、今ここにやってくる」とかつぎ、からかう。やがて薄衣をまとつた牛若が五条の橋に現れ、母の命により明日から鞍馬山へはるることを告げ、今夜を名残と橋板を踏み鳴らし通行人を待ち構える。夜が更け、袈裟頭巾に頭をつつみ、鎧の上から黒い衣を着、大長刀をたずさえて荒法師弁慶が現れる。薄衣をかついだ女の姿の者

を目にとめ、何者かをうかがうが、相手は女、自分は出家、思ひわづらいながら通り過ぎようとする。牛若は弁慶の長刀の柄を握り上げる。

「すは、しれものよ。物見せん。荒法師弁慶と美少年牛若との新り組み。終には弁慶は降参し、主従の契り結び、九条の御所へお供したのだった。」

杜 若 恋之舞

諸国一見の僧が東国三河国へ着く。沢辺に杜若が今を盛りと咲いており、あまりの美しさに見とれて、里の女が現れる。「こは三河国八橋といふ杜若の名所であり、色もひとしお濃い紫(ゆかり)の花だ」とりわけ心してご覧なさいませ」と言う。そして「伊勢物語」にある八橋の詠われを、さらに「沢の杜若の面白く咲き乱れているのを見て、ある人にカキツバタの五文字を句の頭において旅の心を詠めと言われ」「からころもきつづなれにしましあればはるばるさきぬるたびをしおほもふ」と詠んだ。これが在原業平の歌である」と教えた。また「業平は東下りのみならず陸奥の名所名所まで歌の心を寄せて旅をし、なかでもこの三河の八橋の杜若を心にかけた。その業平の形見の花は今もここに案内する。」

次回予告

京都観世会六月例会

令和3年6月27日(日)

午前11時開演

(能) 頼 政 古橋 正 邦

(狂言) 文山賊 野村 又 三 郎

(能) 水無月祓 橋本 擴 三 郎

(能) 土蜘蛛 大江 信 行

【お知らせ】

当館ではアルコール消毒液の設置や、多くのお客様が手に触れる箇所には定期的に清掃・消毒を行っております。
。「検温」「マスク着用」「咳エチケット」「手指消毒」のご協力をお願い申し上げます。
。「発熱・咳など風邪症状のある場合は、ご来館前に医療機関に」相談ください。
。「宇幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。
。今後の状況変化により、催し物の内容変更または延期となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

附 祝 言

(終了予定 四時頃)

【表紙写真】

《須磨源氏》 浦田 保 浩
金の星屋辺写真場 撮影

黒頭
入道之伝